

県立中央病院の新型コロナウイルス感染症に係る取組み

1. 治療・検査体制の強化

- ① 新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受け、最大45床の受入れ体制を整備
中等症以上の患者を中心に139名の入院患者を治療。受入れ病室を陰圧室へ改修
- ② 令和2年2月から、情報共有のため、週3回（月、水、金）朝7：30より、多職種によるコロナ対策会議を開催
- ③ 令和2年5月から新型コロナウイルス感染症患者に対応するため、発熱外来用プレハブを9台設置し診療室等として活用
また、県から無償貸与を受けた医療コンテナを設置し、発熱外来の機能を強化
- ④ 診断のためのポータブルX線装置や超音波画像診断装置、治療のための人工呼吸器20台や人工肺（ECMO）2台等を整備
- ⑤ 令和2年7月に院内感染防止と患者の診断・治療の指針としての「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を作成し、電子カルテに掲載
- ⑥ 令和2年7月に新型コロナウイルスの院内感染を想定した対応訓練を実施し、59名（院内56名、保健所等3名）が参加
- ⑦ 令和2年9月に7月の対応訓練で確認された課題に対する訓練を実施し、53名が参加
- ⑧ 令和2年11月には、新型コロナウイルスに係る職員陽性者発生時の振り返り訓練を実施し、61名が参加
- ⑨ 新型コロナウイルス感染症患者の看護と感染対策ができる人材を育成するため、希望者26名に対して、新型コロナウイルス感染者の入院病棟で看護及び環境整備などの実務実習を実施。経験を積んだ看護師をクラスターが発生した他施設へ派遣
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症患者用エリア内でシャワー浴が行えるよう、機械浴室をシャワールームに改修。また、専用の洗濯機、乾燥機を設置
- ⑪ 24時間体制の発熱外来において、PCR検査に加え、コロナ、インフルを含む21種類のウイルス・細菌を50分で検出できる機器「フィルムアレイ」を稼働させ、高感度で迅速な検査体制を構築
- ⑫ 新型コロナウイルス感染症患者から採取した検体の遺伝子配列を275例解析し、アルファ株117例、デルタ株1例、検査以外で国内初確認となるガンマ株1例を確認

2. 院内感染防止(患者さん等)

- ① 令和2年3月から全部署の換気確認を開始。また11月より、二酸化炭素の計測器による換気の見える化に着手
- ② 令和2年4月に3密を避けるため待合席を整理
- ③ 令和2年4月から入院予定患者の入院前PCR検査を実施
緊急入院の患者については、PCR検査の結果が判明するまでは必ず個室に入院させることとした
- ④ 令和2年5月に飛沫感染防止のため会計窓口等にアクリル板を設置
- ⑤ 令和2年5月から入院患者全員のマスク着用推進
- ⑥ 令和2年5月から来院者すべての正面玄関入口における体温測定を徹底し、発熱者はコロナストップ・発熱外来にてコロナ感染症の有無をチェックする体制を構築
- ⑦ 令和2年5月から面会基準を見直し、主治医の許可があり体調に問題がない人に制限。また、11月からは面会は原則禁止とし、主治医の許可があり体調に問題がない人であっても1日1人10分以内に制限
- ⑧ 令和2年7月に委託業者9社269人に対して、抗体検査を実施。その後も業者来院の際にPCR検査等を実施
- ⑨ 令和2年8月から付き添い家族へのPCR検査を開始
- ⑩ 外国人患者に対して、感染防止上必要な情報を多言語で提供するため、デジタルサイネージ(電子看板)を設置

3. 院内感染防止(職員)

- ① 令和2年4月に新規採用職員130名及び異動職員に対し、PCR検査を実施
- ② 令和2年4月から職員全員が毎日体温測定を行い、発熱状況を見える化した体温モニタリングを実施
- ③ 令和2年5月に職員の抗体検査を1,307件実施、12月にも1,234件の抗体検査を実施
- ④ 令和2年5月に飛沫感染防止のため事務室等にアクリル板を設置
- ⑤ 令和2年5月から7月の間、職員の3密を避けるため、ローテーション勤務を実施
- ⑥ 院内感染防止及び福利厚生の一環として、令和2年8月から11月の間、希望する職員162人に対して、休暇前後の新型コロナウイルスのPCR検査、抗体検査を実施
- ⑦ 令和2年11月に当院職員5名の感染が確認された際に、職員、職員家族、患者、外部業者に対して、PCR検査605件、抗原定量248件、フィルムアレイ35件を実施し、全員の陰性を確認
- ⑧ 令和3年3月から職員へのワクチン接種を実施し、5月までに完了

4. 県等への協力

- ① 令和2年4月から新型コロナウイルス医療対策本部における入院調整班としてDMAT隊を延べ207回派遣
- ② 令和2年4月から5月に県新型コロナウイルス感染症軽症者等宿泊療養施設（ホテル若神楼）へ延べ32名の看護師を派遣
- ③ 令和2年8月から9月に新型コロナウイルス感染拡大に伴い医療体制性が逼迫した沖縄県へ看護師2名を14日間派遣
- ④ 令和2年8月から11月にクラスターが発生した医療機関等へ延べ29名DMAT隊員を派遣
- ⑤ 令和2年9月から新型コロナウイルス感染症に不安を抱える妊婦へのPCR検査を実施し、当院患者361名、他院患者29名を検査
- ⑥ 令和2年11月から県新型コロナウイルス感染症宿泊療養施設（東横イン甲府駅南口）に係る医師のオンコールに対応
- ⑦ 令和2年11月から重症化もしくは重症化の恐れがある患者の夜間受入れ先として、週4日（月・水・金・日曜日）の受入れの役割を受託
- ⑧ 令和3年3月からワクチン接種後の副反応を疑う患者の受診先となる、専門的な医療機関としての役割を受託
- ⑨ 医療従事者向けのワクチンについて、管理・配分を行う

5. 地域医療機関への協力

- ① 令和2年11月から、かかりつけ医からの新型コロナウイルス検査の依頼について、FAXで申込、FAXで回答
- ② 令和2年10月から甲府市医師会においてPCR検査を実施するため、甲府市医師会の検査技師2名の研修を実施
- ③ 令和2年4月に甲府共立病院の新型コロナウイルスの対策会議・院内ラウンドのため、感染看護認定看護師を派遣
- ④ 令和2年4月に塩川病院の院内ラウンドのため、感染看護認定看護師を派遣



上記取組みにより、新型コロナウイルスによる診療の中止や縮小を行うことなく、病院機能を維持することができた。

6. 関連収支

【支出】

単位：円（税込み）

項目	支 出		備考
	科目	執行額	
抗体検査・PCR 抗原検査用試薬の購入	薬品費	61,172,000	
感染対策に要する物品購入 手袋、マスク、ガウン、フェイスシールド、スクラブ等	診療材料費 医療消耗備品費 職員被服費	159,505,000	
発熱外来開設、医療コンテナ受入れのための 施設改修に要する経費	工事費 賃借料	25,497,000	プレハブ設置、ネットワーク施設、給排水工事、 電源工事、花壇撤去
患者受入れ病棟の改修に要する経費	工事費 修繕費	18,317,000	病棟陰圧工事、間仕切り設置、排水系統工事、 LAN配線工事
発熱モニタリングのための守衛増員	委託費	3,823,000	
職員への防疫手当	給与費	53,841,000	
人工呼吸器 20台	器械備品購入費	85,630,000	
体外式膜型人工肺（ECMO）2台	器械備品購入費	22,000,000	
簡易陰圧装置 Mintie、ACE-5000	器械備品購入費	15,015,000	
気管支鏡、ポータブルX線装置、 HEPAフィルター付パーティション等	器械備品購入費	27,099,000	
合計		471,899,000	

【収入】

単位：円（税込み）

項目	収 入		備考
	科目	入金額	
国・県からの補助金	補助金等収益 資産見返補助金等	1,033,206,486	
県からの要請による 他施設への職員派遣料	その他 雑収益	8,753,000	沖縄県、クラスター発生施設への派遣
県新型コロナウイルス医療対策本部への 専門医師・DMAT派遣料	その他 雑収益	4,471,000	
妊婦へのPCR検査実施委託料	保健予防活動収益	8,580,000	
合計		1,055,010,486	